

[国 語]

漢文学教材における身近な視点を生かした新たな 授業づくりの方法と実践

—教材としての『論語』を中心に—

小黒 成寛*

1 主題設定の理由

従来の漢文学教材を扱った授業といえば、教科書に掲載されている『論語』などの経書のわずかな章句や、数編の漢詩を取り上げ、漢文訓読の方法を理解するとともに語句や文、章句の意味を理解することに終始する授業が多いのではないだろうか。そもそも漢文学教材は中国の古典である。それが漢文訓読という手法によって日本語として読む工夫が成されたとはいえ、生徒にとっては古文であり、また外国語に近い感覚を抱く生徒もいるだろう。従って、漢文訓読の手法を理解した上で、現代語としての意味を知る活動はもちろん必要である。しかしこれだけに終始してしまえば、古典的文章に親しみ、自ら読み進める姿は実現されにくい。ましてや、我が国に初めて伝来した書物である経書や歴史書の、その後時代を超えて人々に親しまれ、また言行の規範となり続けた価値の一端に生徒が気付くことは十分に期待できない。このような学びは、いわば知識・技能だけをおさえる認知的な学びであるといえるだろう。

そこで、多様な漢文学教材それぞれに、生徒たちにとって身近な視点をもたせて教材を読み進めてはどうかと考えた。自分が普段意識していることを作品ではどのように語っているのか、このような視点をもつことで、教材の言葉と実体験がつながり、「他の章段や作品ではどのようなことが語られているのだろう」と感じたり、教材の言葉を共感的に受け取ったりすることにつながるはずであると考えた。

2 研究の目的

本研究の目的は、身近な視点をもって漢文学教材を読むことで、実体験と教材をつなげ、今日まで読み継がれてきた教材がもつ教訓的価値や面白さに気づき、漢文学教材への興味が深まったり、生徒自身のこれからの生かしていこうとする姿勢につながったりすることを、実践を通して検証することである。

3 題材と研究の方法

本研究では『論語』を中心とした経書を扱う。『論語』は孔子とその弟子たちの言行を記録したものであり、人間のあるべき姿を追求する指針となる書物として、中国だけでなく、日本をはじめ数多くの国々で読み継がれてきたものである。人々に読み継がれてきたのは、日々座右に置きたい教訓としての、人種や国境を越えた普遍的な価値を、『論語』の言葉がもっているからであると言える。

そのような『論語』を読む上で設定した視点が「学び」である。普段我々も含めて生徒たちが何気なく使っている「学ぶ」という概念について、孔子はどのように考え、『論語』の中でどのように語られているのかを探っていく学習を設定した。『論語』は「学ぶ」ことにとどまらず日々の生活や生き方など多方面に言及しており、人々の行動の指針となってきたものであるが、とりわけ「学ぶ」ことに関わっては、「知る」こと、「考える」こと、「習う」ことなど、広い意味での「学ぶ」ことに対する孔子の考えが具体的に述べられている。このような「『論語』の学び」に、これから大きく学びを広げようとする中学生が触れることは、生徒たちのこれからの学びの人生に示唆を与え、自己の学びを見つめたり、振り返ったりするきっかけになるものと考えた。このような「『論語』の学び」を探ることを通して、生徒に新たな気付きや言葉から受け取る価値の理解に変容が生まれたかを発言や記述を基に考察する。

*新潟大学教育学部附属長岡中学校

4 実践

(1) 単元名「二千五百年前からのメッセージ」(中学2年『論語』)

(2) 単元における題材としての価値

- ①孔子やその弟子たちの言行を記録したものであるため、章句に教訓的価値が高いこと。
- ②章句の抽象性が高いため、生徒一人一人が自分に当てはめやすいこと。
- ③我が国の伝統や文化、道徳性に密接に関わっていること。

(3) 単元計画(全7時間)

本単元における育みたい資質・能力

認知的資質・能力	社会的資質・能力	実践的資質・能力
「『論語』の学び」の意味を多くの章句からの的確に捉えること。	時代を超えて読み継がれてきた理由、教訓的価値を実感すること。	広く『論語』に当たり、課題となる「学ぶこと」や実生活の課題に合わせた言葉を探すこと。

次	○学習課題 ・ 学習内容	教師の手立て等
1次 (1時間目) (2時間目)	○教科書の『論語』を通読し、漢文訓読の手法や語句の意味を理解しよう。 ・『論語』を読み、日本語として読むための工夫を理解しよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">白文と訓読文、書き下し文の違いは何だろう。 それぞれの訓読点の働きは何だろう。 など</div> ・教科書の『論語』について、文の意味を捉えて自分の経験とつなげよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">分からなかったことが分かったときは私もうれしいな。 私は友達に理解してもらえなかったら不満を感じるな。 「自分がされて嫌なことは人にするな」という言葉は今までよく聞いてきたな。</div>	章句の意味を全員で確認する。 自分に当てはめて考えるように促す。
2次 (3時間目) (4時間目 本時)	○「『論語』の学び」を捉えよう。 ・「学ぶ」とはどのようなことを言うのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">教わる？ 覚える？ 考える？ 知る？ 捉える？ 理解する？ 深める？ 先生から得る？ など</div> ・「学ぶ」ことに関わる『論語』の言葉を見てみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子曰はく「三人行れば、必ず我が師有り。」と。 子曰はく「過まちて改めざる、是れを過ちと謂う。」と。 など</div> ・「学びて思はざれば則ち罔し」の一節から分かることは何だろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「学ぶ」ことと「考える」ことを区別しているんだな。 「学ぶ」ことと「理解する」ことも区別しているね。</div> ・みんなの「学ぶ」、『論語』ではどのように述べているだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「知る」…自分が知らないことははっきりさせることだね。 「先生」…身近な人も先生だと言っているね。</div>	『論語』に関わる書籍を一人一冊以上用意する。 難易度に差のある書籍なので、一冊に限らず広く当たるよう促す。 意味を全員で確認する。 注目した章句ごとにグループを編成し、グループ内で共有させる。

	<p>・みんなは『論語』の言葉をどう感じたのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>昔から今と同じことを大切にしてきたんだな。 この言葉は意外だけど納得できるな。</p> </div>	<p>全体場で発表させる。</p>
<p>3次 (5時間目) (6時間目)</p>	<p>○学級での生活を振り返り、「学級で意識していきたい言葉」を『論語』のなかから探し出そう。</p> <p>・一日の生活を場面ごとに振り返ろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>朝読書はだいぶ自主的に読むようになってきたな。 授業中の私語はまだ課題だな。 給食の準備は早いけど、好き嫌いのある人が多いな。</p> </div> <p>・『論語』を読み進め、意識したい言葉をピックアップしよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>この言葉は〇〇の場面にぴったりだな。 この言葉はいろいろな場面に当てはまるな。</p> </div>	<p>朝読書、授業、休み時間など、場面ごとに振り返らせる。</p>
<p>4次 (7時間目)</p>	<p>・選んだ言葉を班員に紹介し、班としての考えをまとめよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>同じ言葉を選んだ人がいるな。 私の選んだ言葉より彼の選んだ言葉の方がこのクラスにぴったりだな。</p> </div> <p>○考えを発表し、「学級で意識していきたい言葉」を完成させよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><input type="checkbox"/> 班の選んだ言葉と△班の選んだ言葉は同じ意味だな。 <input type="checkbox"/> 班の方が自分たちの班の言葉より分かりやすいな。</p> </div>	<p>場面を明示して言葉を発表させる。</p>

(4) 指導の手立て

次に具体的な手立てとして3点記述する。

① 「『論語』の学び」を捉えることを中心課題に置く

学ぶことは、生徒にとっての日常とも言え、また言葉としても馴染み深いものである。一方で『論語』では第一に「学而」篇が位置付けられ、『論語』の内容や孔子の考えを知る上で手掛かりとなる重要な概念である。たとえば、生徒たちにとっての「学ぶ」という概念の一つに「知る」がある。その「知る」ことについて、『論語』「為政」の一節に「之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す。是れ知るなり。(知っていることを知っているとし、知らないことを知らないとする。それが知っているということだ。)」がある。「知る」こととは一般的に「状況や内容、意味をつかむ」といった認識でいる生徒たちにとっては、「知る」ことの一つは知らないことが何かを認識することだ」という『論語』のメッセージは、意外でありながらも経験的に納得できることであろう。このように、「学び」の捉えを中心課題に置くことによって、生徒にとって近しい視点から『論語』を見つめることができ、理解の深まりとともにその教訓的価値に気付くことが期待できる。

② 公立図書館との連携

『論語』を学習するにあたって、使用教科書ではわずかに三つの章句しか掲載されていない。公立図書館との連携によって、入門書から、専門書に近い中学生にとっては高度なものまで、生徒一人に一冊分『論語』に関わる書籍を確保し、教科書に掲載された部分以外の章句についても広く読み進められるようにした。

③ 「学級をより良い集団にしていこう」という学級活動としてのプロセスを踏む

「時間を守ること」や「メリハリをつけること」など、生徒が普段課題意識をもっていることを切り口に、「みんなで意識していきたい言葉」を、『論語』から探っていく。「『論語』の学び」から入った単元の出口にこの手立てを用いることで、「学び」から生活全般へと目を向けさせる。そして、学級集団の向上心が学習意欲へ作用し、同時に、『論

語』がもつ座右におきたい教訓としての価値に気付き、実生活に『論語』が繋がっていくことを期待できる。

5 授業の実際と考察

(1) 本時（4/7時間）までの様子

「『論語』の学び」を探っていくにあたり、覚えることや知ることなどの「学ぶこと」に関わることについて、生徒がどのように捉えているかをイメージマップ（図1）でまとめた。

「知る」「読む」「覚える」「理解する」「聞く」「話す」「考える」などが多くの生徒が挙げたものである。その後、生徒それぞれが手にした書籍から、「学ぶ」から一段階具体的になったそれらの行為に関わる章句について見ていく活動を取り入れた。それぞれの生徒が着目した『論語』の章句を見ると、「学ぶこと」のイメージマップが選んだ章句に関連していることが分かった。

生徒は『論語』の章句のうち、主に次の章句に着目した。（人数は抽出学級内での数）

- ・ 学んで思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。・ 6名
- ・ 過まちて改めざる，是れを過まちと謂う。・ 4名
- ・ 故きを温めて新しきを知る。以って師と為るべし。・ 4名
- ・ 教えありて類なし。・ 3名
- ・ 知る者は好む者に如かず，好む者は楽しむ者に如かず。・ 3名
- ・ 吾十有五にして学に志す。・ 2名

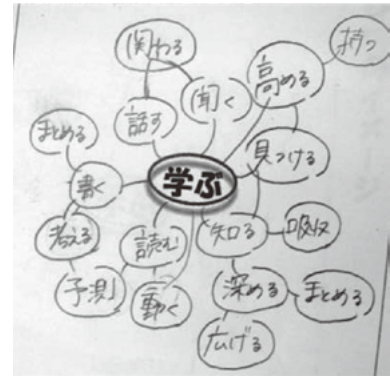


図1 「学ぶこととは？」イメージマップ

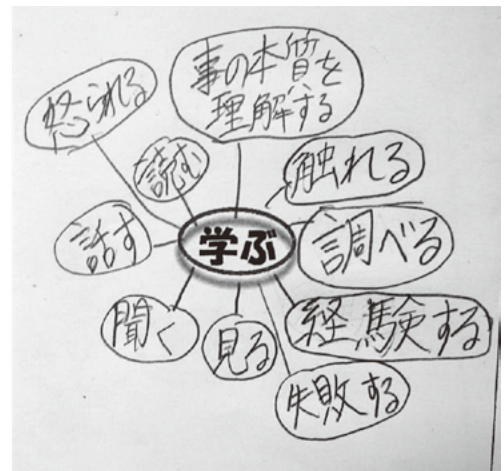


図2 左記該当生徒のイメージマップ

このうち、「過まちて改めざる，是れを過まちと謂う。」に着目した生徒の「学ぶこと」のイメージマップ（図2）を見てみると、4名のうち3名が、「学ぶこと」の具体的な姿の一つとして、「失敗すること」や「注意されること」を挙げており、このことを挙げた生徒が全体でも3名であることから、「学ぶこと」のイメージマップの活動は、その後に『論語』を読み進める上での、着眼点としての機能があると言える。

その後、着目・選択した『論語』の章句をもとにグルーピングを行った。

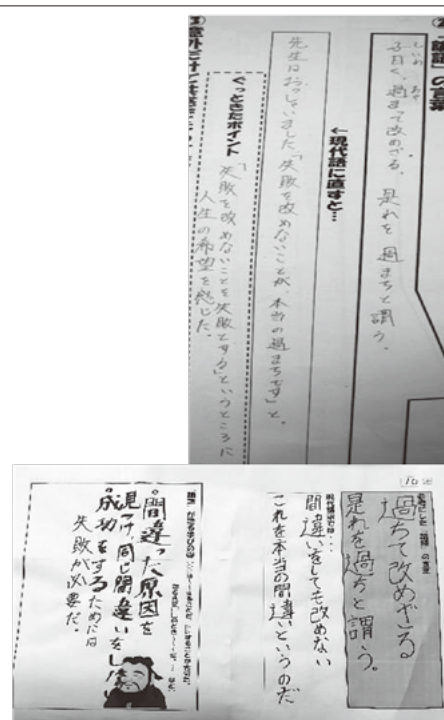
(2) グループ交流の様子（上記、「過まちて改めざる，是れを過まちと謂う。」を選んだグループと、複数の章句から編成されたグループを中心に）

まず、それぞれの章句をなぜ選んだのかについて交流した。その後、この章句から読み取れる、「孔子が言いたいこと」についてグループで意見交流した。その様子を生徒の観察記録（ビデオ・ICレコーダー）及び筆記物（ワークシート）より分析する。

【交流① 「過まちて改めざる，是れを過まちと謂う。」を選択したグループの交流の実際】

- 生徒1：4人とも言葉は同じなんですけど、どうしてこの言葉を選んだかをまず順番に発表していきましょう。
- 生徒2：僕はこの言葉を見て、「自分は間違っても直さないことがあるなあ。」と思って選びました。
- 生徒3：私は「間違いを直そうとしないのが本当の間違いだ」っていうところに思い当たる節があったので選びました。
- 生徒4：私は他の『論語』の言葉より一番身近づき感じたから選びました。
- 生徒1：僕は「失敗はするものですよ、しても直していけばいいんですよ」ってニュアンスに希望を感じました。
- 生徒3：確かに「失敗はするものだ」ってことだね。失敗しない人なんていないもんね。
- 生徒1：この言葉から孔子の言いたいことをまとめるっていうと、どうする？
- 生徒3：「失敗はするものだ」ってことですよ。

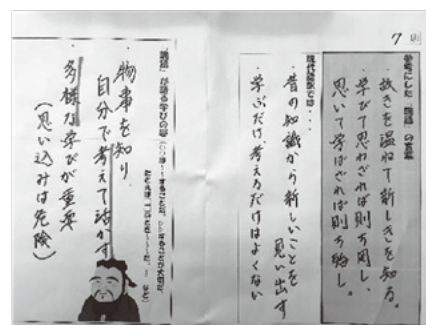
生徒2：いや「改善していくことが大事だ」ってことじゃない？
 生徒3：それはもちろんそう。
 生徒2：「失敗はするものだ」っていうのは前提的な。
 生徒3：「だからこそ」ってことね？
 生徒2：「失敗してもいいんだよ」って読み手はホッとするとね。
 生徒1：人生の希望ね。
 生徒4：「失敗するから成功に近づく」ってことも言えるよね。
 生徒4：「失敗は成功のもと」的な。
 生徒1：「間違ったらその原因をよく考えろ」っていうのも言えるんじゃない？
 生徒2：おー、進化したね。
 生徒1：じゃあ、間違っただけの原因をよく考えなさいってことと、成功するには失敗が必要だってことでいい？（書き込む）
 生徒4：まず失敗しようってことじゃなくてね。（書き込む）



【交流2 「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」2名と、「故きを温めて新しきを知る。以て師と為るべし。」2名のグループの交流の実際】

（言葉の意味や選んだ理由を紹介し合った後）

生徒1：違う言葉なんで一つに考えをまとめるのは難しいよね。
 生徒2：二つの考えをみんなに紹介すればいいんじゃない？
 生徒1：とするとこっちは、「習うことと考えること両方大切だ」ってことです。
 生徒2：こっちは「昔のことをしっかり知って、新しいことも知りましょう」ってことです。…（4人考え込む）
 教師：このグループの二つの言葉は「要するに」ってまとめられないですか？
 生徒1：いけるかもしれませんがね。
 生徒2：じゃあまとめよう。
 生徒3：古いことを知る、新しいことを知る、この「学びて」も知るでまとめられるんじゃない？
 生徒1：知っても考えないと…で意味は通るね。
 生徒1：知ることも大切、そのあとに自分で考えることも大切ってことで。
 生徒2：（書き込む）
 生徒1：知識と思考力両方大切だよってことね。
 生徒3：考えるってことは活かしていくにつながるよね。
 生徒2：（「考えて活かす」に書き直し、赤線を引く）
 生徒3：要は何か偏っちゃダメってことでしょ？
 生徒2：多様な学びが大切ってことね。（書き込み、赤線を引く）



交流①のグループは、4名とも共感的な理由を挙げているが、内容は少しずつ異なっている。言葉通りに自分を重ね合わせて共感している生徒がいる一方で、言葉によって新たな価値観を得た生徒もいる。生徒1は『失敗することのある自分』が今まで認識していた「失敗」は、本当の「失敗」ではない』ということ、『論語』の言葉から受け取り、『失敗することはあるだろう。失敗をしても改めていけばよいのだ』という新たな気づきを『人生の希望』と表現していると考えられる。個々の捉えや言葉の感じ方、考え方の違いに交流を通して気づき、新たな見方や考え方の獲得に繋がっていると見える。

交流②のグループは、当初異なる二つの章句はそれぞれ異なる「学び」を表現していると考えていたが、教師からの

助言も踏まえて交流する中で、個々には気付かなかった二つの章句に共通する概念にたどり着いており、このグループについても新たな見方や考え方の獲得に繋がっているといえる。

(3) 単元終末までの様子

グループごとの交流を行ったのち、それぞれのグループが全体場で発表をした。その後、個々に「一番グッときた『論語』の「学び」と題して章句を選び、その理由をまとめた。以下は生徒の記述である。

学びて思はざれば則ち罔し	今女画れり	過まちて改めざる 是を過まちと謂う	教えありて類無し
人は一人では生きていけないというが、学びの面でも他人の意見を取り入れ、自分を深めることが大切だということに感心した。	「ここまでやればいいだろう」僕がよく思うことです。限界だと思わず、できる限りやることで自分の成長につながると思いました。	間違ってしまうことを認めることを成長への道としていて、自分を含め誰もが意識すれば実現できると思った。	なぜ人は勉強をしなければならないのか、その答えがあると思った。将来を明るくするために苦勞しても学び続けることが必要だと思った。

その後、「学び」に関わる章句以外にも読んでみたいという生徒の要望から、学級活動としての「現在の学級の改善点」を洗い出す活動と合わせることで、「学び」に関わることに限らず、生活全般に関わる章句に触れていった。

6 成果

今回の実践において、生徒にとって身近な「学び」という視点をもつことは、『論語』を読み深める上でも、実生活に繋げていく上でも有効であったと考える。視点を限定したことにより交流が実現した。そして身近である分、『論語』の内容が理解しやすく、また自分の今後につなげて考えやすくなった。数ある『論語』の章句から、すべての生徒が着目する章句を選び、交流ののち発表し得たのは、そして心に残った章句を選び得たのは、身近な視点があればこそであると考えられる。

また、公立図書館と連携して生徒一人に一冊以上『論語』関連の書籍を用意したことも有効であった。小学生向けのものから専門書に近いものまでを用意したが、それぞれに分かりやすさと詳しさの長所があり、生徒たちは交換しながら夢中で読んでいた。わずかな章句を掲載した教科書だけでは成し得ないことであり、また、難易度の異なる書籍があることはプリント等による共通の教材にはない、分かりやすさと詳しさの両面を有する利点があった。

さらに、学級を良くしていこうとする学級活動としてのプロセスを踏むことについては、2次までの学習において生徒たちから「学び」以外の章句も見たいという声が上がったことから、より自然に活動につなげることができた。その後ポスター化して教室に掲示された。『論語』の言葉を身近に感じること、また日々生活する上で意識しようとする自覚の高まりの一つの形であろう。

7 課題

今回は「学び」を視점에『論語』を読み進めたが、この視点は「学而」篇から始まり教訓的価値に満ちた『論語』だからこそこの視点であり、「学び」という視点は他の漢文学教材への汎用性は低い。視点を限定する有効性は認められるので、教科書掲載の漢文学教材それぞれを単元のスタートに、広く他の場面や作品にも興味をもち、実生活につなげていけるような視点を探っていくことが必要である。『史記』『項羽本紀』に関連した教材を「人望」や「信頼」などの視点をもって読むことの効果、李白の漢詩ではどのような視点が有効か、このような意識をもって研究と実践を重ねていきたい。

引用参考文献

- 謡口 明「弟子の視点から読み解く『論語』」朝倉書店、2019
 加地 伸行「論語 全訳注」講談社、2009
 下村 湖人「論語物語」講談社、1981
 中村 和弘／東京学芸大学附属小学校国語研究会『見方・考え方 国語科編』東洋館出版社、2018
 奈須 正裕『資質・能力と学びのメカニズム』東洋館出版社、2017